

午後Ⅱ試験

問 1

出題趣旨

仮想化技術を用いてサーバ統合を図る組織が増えている。しかし、サーバを統合するだけで、システム運用業務の集約を行わなければ、運用コストの削減につながらない。

システム監査人は、業務の品質改善、業務の効率向上、コストの適正化といったシステム運用業務集約のメリットだけでなく、システム運用業務集約に伴って生じる可能性のあるリスクを適切に把握できなければならない。

本問では、システム運用業務集約のメリット及びリスクを踏まえた上で、監査人としてシステム運用業務の集約の適切性を監査するための知識と技能を問う。

問 2

出題趣旨

システム開発の中止、大幅な遅延、大幅な予算超過、期待効果の未達成などのプロジェクトの失敗、及び大規模障害、外部委託先との訴訟などのトラブルの要因の一つとして、要件定義の失敗が挙げられる。

システム監査人は、要件定義とそのシステムへの組込みについて、システム開発の体制や手法に合った適切な役割分担、方法、文書化などが行われているかを確認することによって、要件定義の失敗によるプロジェクトの失敗やトラブルの防止に貢献することができる。

本問では、システム監査人がシステム開発の各工程において適切な監査手続を実施できる能力があるかを問う。

問 3

出題趣旨

基幹系システムの再構築に当たっては、ソフトウェアパッケージを利用することで期間短縮、コスト削減などのメリットが期待できる。しかし、基幹業務の独自性から、ソフトウェアパッケージが有する機能だけでは対応できず、業務の一部見直し、追加開発の必要性が生じることもある。追加開発が多くなると、コストの増加、稼働開始時期の遅れだけでなく、運用・保守の面で煩雑な個別対応が必要になることもある。

したがって、ユーザ企業とベンダ企業が協力してギャップ分析を行うとともに、追加開発部分を含めたシステム全体の運用・保守性なども踏まえて再構築する必要がある。

本問では、ソフトウェアパッケージの利用を前提とした基幹系システムの再構築について、その適切性を監査するための見識や技能を問う。